



米国株 MARKET PICK UP



先週の米国株式市場—早期利上げ観測後退とコモディティ価格反発で上昇—

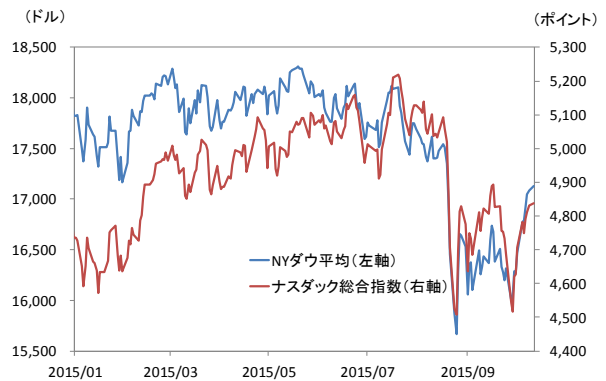
	前週終値	10月5日	10月6日	10月7日	10月8日	10月9日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	16,472.37	16,776.43	16,790.19	16,912.29	17,050.75	17,084.49	+612.12	+3.72%
騰落幅		+304.06	+13.76	+122.10	+138.46	+33.74		
S&P500	1,951.36	1,987.05	1,979.92	1,995.83	2,013.43	2,014.89	+63.53	+3.26%
騰落幅		+35.69	-7.13	+15.91	+17.60	+1.46		
ナスダック総合指数	4,707.78	4,781.26	4,748.36	4,791.15	4,810.79	4,830.47	+122.69	+2.61%
騰落幅		+73.48	-32.90	+42.79	+19.64	+19.68		

＜今週の概況＞

先週の米国市場はダウ平均が週間で612ドル高と大幅に上昇しました。前週末に発表された雇用統計が低調だったことや、8日に発表されたFOMC議事要旨がハト派だったことから早期の利上げ観測が後退しました。また、原油をはじめとするコモディティ価格が反発したことで、世界的なリスクオフムードが和らいだことが好感されました。

ダウ平均は週明けの13日も上昇し、昨年12月以来の7日続伸を記録しました。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



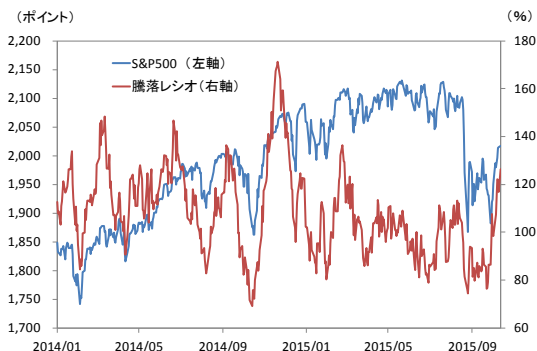
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	15.6	3.0	2.6%
S&P500	17.1	2.7	2.2%
ナスダック総合指数	21.1	3.5	1.2%

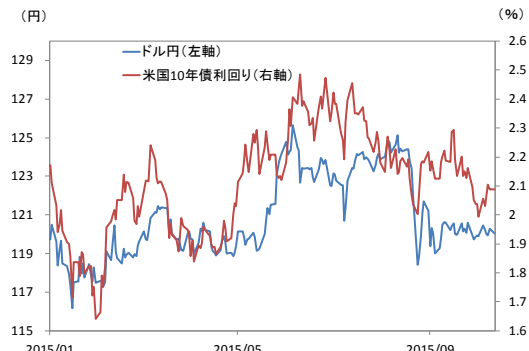
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2015年10月12日時点)

S&P500と騰落レシオの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

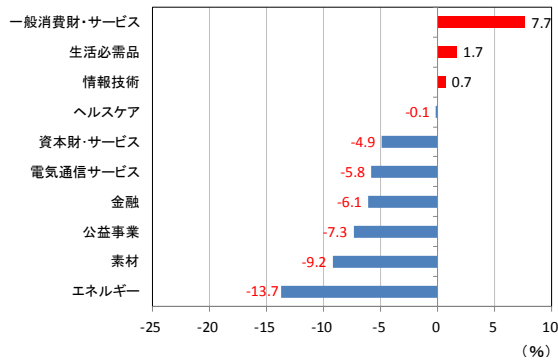
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

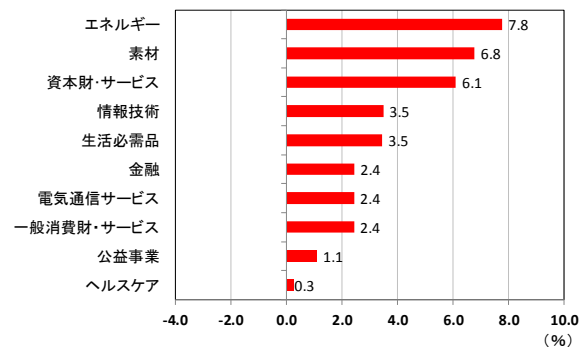
業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング (10/5-10/9)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
DD	イー・アイ・デュポン・ドゥ・ヌムール	14.0
GE	ゼネラル・エレクトリック	10.2
CVX	シェブロン	9.8
CAT	キャタピラー	8.5
CSCO	シスコシステムズ	8.3
UTX	ユナイテッド・テクノロジーズ	6.2
IBM	IBM	5.4
BA	ボーイング	5.4
INTC	インテル	5.3
V	ビザ	4.7

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

値下がり率ランキング (10/5-10/9)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
NKE	ナイキ	-0.2

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

<上昇>

ダウ平均採用の 30 銘柄中ナイキ (NKE) を除く 29 銘柄が上昇しました。デュポン (DD) は最高経営責任者 (CEO) の退任が発表され、今後の経営改革が期待されて買いが集まりました。また、物言う株主として知られるファンドが株主になったことが明らかになったゼネラル・エレクトリック (GE) は、今後の株価対策への期待が膨らんで大きく上昇しました。原油価格の上昇を受けてシェブロン (CVX) やエクソン・モービル (XOM) も反発しました。

先週発表された主な経済指標

FOMC 議事要旨



8日に発表された9月開催の連邦公開市場委員会（FOMC）の議事要旨は、世界経済の減速が米国経済に与える影響を見極められるまで利上げを控えるという趣旨で、概ねハト派的な内容でした。

市場では9月の利上げ開始についてより積極的な議論が行われていたと想定されていましたが、予想よりも利上げ見送りがすんなりと決定されたと判断され、早期の利上げ観測が後退する格好となりました。

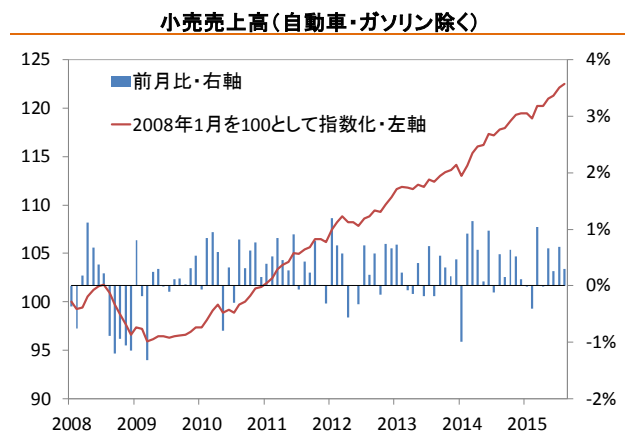
ただ、依然としてFRB関係者は年内利上げ開始の旗を降ろしておらず、12月利上げがメインシナリオであると考えています。

今後発表される主な経済指標

9月	小売売上高（前月比）	市場予想	+0.2%	前月	+0.2%
	除く自動車・ガソリン	市場予想	+0.3%	前月	+0.3%

14日に9月の小売売上高が発表されます。変動の大きい自動車とガソリンを除いた売上高は8月まで4ヶ月連続で前月比プラスと、米国の個人消費は堅調に推移していると考えられます。

新車販売台数など、個人消費の先行指標が堅調に推移していることから、小売売上高は9月分も前月比プラスを維持するとみられています。



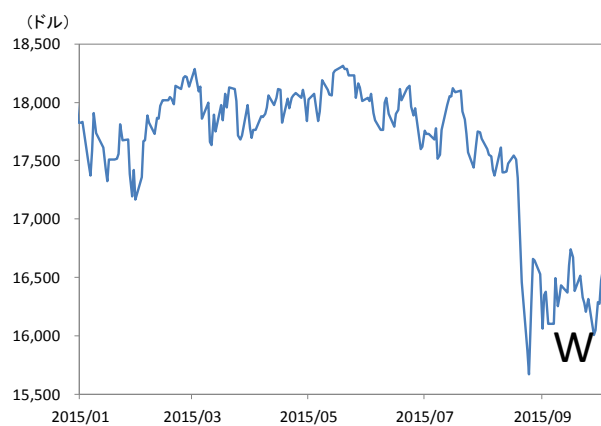
(出所)トムソン・ロイターデータよりマネックス証券作成

マーケットビューー米国株はダブルボトム完成で安心感も足下は若干の過熱感一

先週のマーケットビューーでは、世界経済をめぐる不透明感が解消されていないことから、ダウ平均は1万6000ドル~1万7000ドルのレンジ推移が続くのではないかと記しました。早期利上げ観測の後退とリスクオフムードの後退で、ダウ平均は反発基調を強め、1万7000ドルを回復しました。

以下に示したとおり、ダウ平均のチャートはダブルボトムが完成し安心感が出てきました。ただ、マネックス証券が独自に算出したS&P500の騰落レシオは、足下で126%と若干過熱感がある水準まで上昇しています。ダウ平均は7連騰中でもあり、直近は利益確定売りが出て1万6000ドル台に押し戻されるのではないかとみています。

NYダウ平均の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

ご留意いただきたい事項

マネックス証券(以下当社)は、本レポートの内容につきその正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。当社が有価証券の価格の上昇又は下落について断定的判断を提供することはありません。

本レポートに掲載される内容は、コメント執筆時における筆者の見解・予測であり、当社の意見や予測をあらわすものではありません。また、提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

当画面でご案内している内容は、当社でお取扱している商品・サービス等に関連する場合がありますが、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

当社でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等には価格の変動・金利の変動・為替の変動等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金(当初元本)を上回る損失が生じるおそれがあります。

なお、各商品毎の手数料等およびリスクなどの重要事項については、[「リスク・手数料などの重要事項に関する説明」](#)をよくお読みいただき、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断で行ってください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会